



うきは市長
高木典雄

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政に対し、格別のご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、7月には九州北部で線状降水帯が連続発生し記録的な大雨となり、巨瀬川の越水による道路の冠水、建物や農地等の浸水被害など甚大な被害が発生しましたが、現在も国の災害査定を受けながら復旧工事に努めているところです。

また、国県の支援のもと、巨瀬川流域関係者による「巨瀬川流域治水推進会議」を設置、「緊急治水対策プロジェクト」を進めています。更に、内閣官房の国土強靱化推進室とも連携し、「国土強靱化地域計画」の内容充実も図っております。懸案だった旧浮羽東高等学校周辺の浸水対策は、県営河川山曾谷川の河川改修が事業化されました。引き続き、防災、減災、安全・安心なまちづくりに努めてまいります。

さて、2023年版九州経済白書のコロナ渦における観光分析では、令和元年と比較した令和4年の来訪者数は九州・沖縄・山口の自治体の中で、うきは市が最も増加しています。これもフルーツなどの農産物、温泉、森林、白壁の伝統的な町並みといった地域資源が誘客に繋がったものと思っています。「道の駅うきは」は、九州じゃらん「好きな道の駅総選挙2023」で1位を獲得、8年連続1位の快挙を達成しました。8月には、道の駅うきはに隣接する「フェアフィールド・バイ・マリオット福岡うきは」もオープンし、多くの方に宿泊いただいております。ここ数年で古民家などを活用した宿泊施設やカフェも増え、今後もさらなる地域観光の充実とまちの賑わいづくりに取り組んでまいります。

また、令和5年度に、日本初と言われる農民劇団「嫩葉会」が結成100周年をむかえ、11月に道の駅うきは内の野外円形劇場で記念イベントを実施しました。100年の時を超え、野外円形劇場に演者の声と観客の笑顔があふれたことは誠に感慨深いものがありました。今後も、この貴重な文化遺産を顕彰し、後世へ語り継いでいくことが重要であると考えています。

11月25日には、ラグビーチーム「ルリーロ福岡」がトップキュウシュウAリーグ順位決定戦において、2年連続のリーグ優勝を果たしました。国内最高峰のリーグワンへの参入を目指すルリーロ福岡を、本市としても応援していきたいと考えています。

街なみ環境整備事業として、居心地が良く歩きたくなるまちを目指す「まちなかウォークブル」を推進しています。筑後吉井の伝統的建造物群保存地区内の国道210号線沿いに、車を通さない散策道の工事を進めています。小中学生が安全に通れる通学路や地域住民・観光客の憩い空間となることを目指し、4月までに完成する予定です。今後も、地域住民に寄り添い、来訪者を寛容に受け入れ、賑わいのあるエリアづくりを目指していきます。

また、依然として続く物価高騰については、今後とも国、県の動向とともに、市としても必要な支援に努めてまいります。

令和6年を迎え、うきは市ならではの歴史や文化、自然などの特性を活かしながら、市民の皆様や市議会議員の皆様と協働して、うきは市に暮らして良かったと思える、健康で心豊かな楽しいまちづくりを進めてまいります。市民の皆様には一層のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、本年が皆さまにとって幸多き素晴らしい年となりますことを心より祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。

新年

のご挨拶



うきは市議会 議長
江藤芳光

顧みて、明日を想う「うきは創生」

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、うきは市議会を代表して、市民の皆様にごあいさつを申し上げます。

市民の皆様におかれましては、新春をお健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から市議会に対する温かいご理解と格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この3年余にわたるコロナ禍の終息とともに、ロシアによるウクライナ軍事侵攻により、エネルギーや食糧など輸入に頼る我が国は急激な為替変動(円安)によって物価高騰をもたらし、国民の生活経済は困窮を極めています。その最中、またもや中東イスラエルではハマスによる戦闘が勃発するなど、世界情勢は人道をも無視した悲惨な報道に、気候変動等により多発する激甚災害ともに人類の危機さえ脳裏をかすめます。

そして我が国では、少子高齢化による人口減少がもたらす都市への一極集中是正策として政府が掲げた「地方創生」は、いつしかコロナ禍で消え薄れたかのように、今や地方経済は農商工等の生産基盤である人材・担い手の確保が喫緊の課題であり、特に農・林業は深刻です。

間近に迫った「2025年問題」は、今日の日本経済を押し支えた団塊の世代が後期高齢期に突入することで社会保障費が増大する社会問題です。遡ること半世紀、顧みれば昭和47年の大阪万国博を機に、時代は急激に動き始めました。それが「高度経済成長」の始まりだったと記憶しています。その当時、大企業の初任給は月額12,500円でしたが、それからというもの給料は倍増して国民の生活は一転、日本は第2位の世界経済大国の地位を確立したのです。

その後も「バブル経済」に沸いたもののバブルは崩壊し、その後30年を経た今日「失われた30年」と口々にしながら誰も再起を期待していますが、この3年余のコロナ禍に追い打ちをかける戦争の勃発等々、ただただ平和的解決を祈るほかありません。

ここで申し上げたいことは、誰も時代を生きる運命ほかなりません。掲げた半世紀の激変による「豊かさ」は、当然の土台ではないということです。今、市民に求めること、それはかつての共生社会です。そのためには政府が掲げる東京一極集中の是正「地方創生」の具現的な政策の実現です。コロナ禍がもたらした「個々分散社会」は、若者の「多様性」という言葉で美化しているのではないのでしょうか。また、地域の伝統文化である祭りやにぎわいも人口減少、少子高齢化という理屈で反論もなく消え去って良いのでしょうか。

うきは市の憲法である「うきは市協働のまちづくり基本条例」では、「自らの地域は自らが築いていく地域社会の実現を目指す」とあります。しかし、これら地域共生の機能不全は、どこも高齢者と若者との不溶な断層にあると考えています。そこで、地域住民が老若に関係なく取り組むべきテーマは「SDGs」、とりわけ身近な生活環境保全への取り組みを、市と議会が一体となって支援する政策を提案していきます。さらには、未来を担う子どもたちに「生きる力」を養う体験学習を、地域全体で取り組むことこそ最も重要だと、新たな年もまた「うきは創生」を目指していきます。

謹賀

新年の